

宇部工業高等専門学校校外発表論文等（抄録）

【学術論文】

「先従隗始」の構造-図解から深い読みを導く漢文の授業-、
畑村学、漢文教育、第44号、2019年12月、p.15-25

本稿は、高校漢文の定番教材である「先従隗始」（先ず隗より始めよ）を、学生の「図解力」を向上させることを目的とした授業で扱った際の実践報告であり、加えてこれまで指導書では指摘されていない、話の構造の特徴等を明らかにした。この話は燕の昭王と郭隗の会話で成立しており、その会話の構造（昭王の依頼に対して、郭隗の提案）そのものが、郭隗が台詞で用いている馬を巡る「古の君」と「涓人」の会話と重ねられている。そこには、食客である郭隗が自分を売り込むための意図があることを明らかにし、授業でも言及した。漢文を苦手とする学生は多いが、漢文の内容を図解によって視覚的に提示することができれば、学生の理解を助けることができるだけでなく、漢文の深い読みを導くことにもつながることを論じた。

UBE方式：グローバル高専生育成を目的とした次世代型国際交流の確立、畑村学、日本高専学会誌、第24巻第4号、2019年10月、p27-32

平成29・30年度の二年間に渡ってKOSEN（高専）4.0イニシアチブ事業に採択された宇部高専の国際交流活動に関して、取り組みの紹介及び報告を行った。本誌は、KOSEN（高専）4.0イニシアチブ事業の特集号であり、6件の実践報告の1つとして紹介された。

【学術講演】

高専間および海外協定校連による理系学生向け中国語教育教材の開発と運用、畑村学・杉山明・野田善弘・橋本剛・泊功、平成31年度全国高専フォーラム（北九州国際会議場）、2019年8月21日・22日

報告者等が研究会を立ち上げ、出版にこぎつけた『理系のための中国語』（好文出版、2017年）に関して、その制作の目的や背景、運用の方法について、特に本テキストを使用している高専間での連携の状況や、海外協定校の学生を中国語の

教育実習生として受け入れグローバル活動と連動させた取り組みについてポスター発表を行った。

古文学習と図解思考、畑村学、台湾国立聯合大学二坪校区・八甲校区、2019年12月16日・17日

報告者が高専の国語の授業で実施している図解力を向上させる取り組みについて、聯合大学の1・2年生を対象に2回の講演を行った。ここ数年、台湾でブームになっている図解に関する書籍は、日本の図解に関する書籍の翻訳が多く、もともと「図解」という言葉自体が日本の明治時代に西洋の文化を日本に導入する際に頻繁に使用されるようになったこと、その先駆けが物理学を図解で紹介した福沢諭吉の啓蒙書『窮理図解』であり、この書籍の爆発的な流行によって、タイトルに図解を付し、様々な事象を図解する書籍が盛んに出版されるようになること、その流れが現代の日本の図解ブームともつながっていることを説明した。そして、図解がグローバル社会を生きる現代人にとって必要なスキルであること、一見複雑に見える図解も基本となるパーツを組み合わせることで成り立っており、トレーニング次第で誰でも作成することができることを紹介した。最後に図解が古典の深い理解にも有効であることを、盛唐の詩人・王維「竹里館」を取り上げて説明した。